

「感染症」と宿主と病原体の関連(だけ)ではなく、社会と病原体の関連で促える視点が新鮮だった。

また、山本先生がこれまでに世界各地で行って来た災害医療支援の話の中で、被災地によって必要とされる支援は異なり、流行する感染症も違う、そのため、それぞれの場所によって有効な支援が違う、という話が印象的だった。

感染症について縦横無尽に斬り込む、非常に内容の充実した講義でした。
ヒトの視点からだけでなく病原体の視点、あるいはヒトと病原体の共生という立場から
病気について理解を含めるという学問は、私にとって新しくとても興味深かったです。

また、先生のご活躍も「縦横無尽」で、そのような生き方もあるのかと感銘を受けました。
ありがとうございました。

国際的に活動して、研究者・医者という枠にはまじないと感じた。

多角的に活動して格好良かった。

国際保健や環境についてあまり考え「たことがない、いつもと違った視点から細菌に関する病気を学べたのでよかったです。

将来、山本先生のように海外で経験を積むのもいいなあと思いました。

授業やスライドがとても分かりやすかったです。

もともと国際貢献に興味があったので、4月のが休講になったときはとても残念だったが、今日補講で話を聞いて良かった。ハイチ、東日本、ネパールでの現地での実際の支援の話で、それぞれの地域で求められることが違ったり、以前災害医療の授業で「トリアージ」が大事ということを知っていたが本当の混乱の中では機能しなかったとか、現地での体験談を聞いて良かった。また感染症と社会との関係の話はとても興味深かった。ヨーロッパでのペストの大流行は近代化をもたらすなどいい面もあったのだとおっしゃった。感染症の歴史と世界史を見比べてみるともっといろいろありそうだなと思った。